

東播の新成人に聞く

うさぎ

「成人の巨」の9日、加古川、高砂両市で成人式が開かれ、参加者は同級生らと旧交を温めた。新成人は加古川が2951人、高砂が92人、稲美が336人、播磨が389人。」

「億総活躍」や「働き方改革」が叫ばれる中、人への第一歩を踏み出した若者に仕事への考え方や将来の目標を聞いた。

(小林隆宏、津田和納、辰巳直之)

加古川市、高砂市で式典



加古川市出身の近藤倫幸さん(20)＝高砂市神爪＝は「仕事とは生きていくために必要なこと」と言い切る。辻調理師専門学校を卒業し、4月から兵庫県内のホテルで料理人としての生活が始まる。「小学生の頃から夢。新しい環境で出会いもあるだろうし楽しみ。料理長として有名になれるよう頑張りたい」と意気込む。

高砂市野口町長野川直樹さん(20)＝加古川市野口町長野＝は「近頃は仕事とアルバイト。武庫川女子大で学びながら、ケーキ店で働く。」

「仕事とは？」

「やかな世界だと思っていたけど、ショーケースの移動といった裏方は重労働。正社員はクリスマス前に休みもなくて働いて、責任感がすごい」と実感する。姫路市内の証券会社に勤務する篠原一菜さん(19)＝高砂市曾根町＝は「仕事には縁とタイミングが重要」と振り返る。今の会社について「就職試験の面接で、役員らと役員が合った瞬間。2年目でやっと任事に慣れてきたところ。経済や株の知識をば、力不足な私を雇ってくれた会社に感謝している。」

生きるため必要なこと
 縁とタイミングが重要
 しんどいが、やりがい

と決意を語る。稲美町岡安の澤風哉さん(20)は「仕事ではコミュニケーションが重要だと思」と力説する。現在は大阪大外国語学部でスワヒリ語を学んでおり「興味があるのは貿易関係。スワヒリ語を使って日本のために何かをフリカのために何かを職業にしたい」と目標を定めている。

播磨町野添の河村友里有さん(20)は「人のために働くことに喜びを感じられるところ。高校時代から天中遺跡めぐり」など地元イベントを通じてボランティアに励んできた。「仕事はしんどいけど、やりがいを感ぜられるもの」という。今は龍谷大に通い高校教師を目指す。「生徒がつらい時こそ話に耳を傾け、寄り添ってあげられるように先生になりたい」と思い描いている。

引き締まった表情で式典に臨む新成人たち＝加古川市加古川町北在家
 ⑥ 晴れ着姿を写真に収める新成人たち＝高砂市高砂町朝日町